

広島商船高等専門学校		開講年度	令和04年度 (2022年度)		授業科目	基礎実習
科目基礎情報						
科目番号	1911015			科目区分	一般 / 必修	
授業形態	実習			単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	一般教科			対象学年	1	
開設期	通年			週時間数	2	
教科書/教材	自主教材を使用					
担当教員	菅田 慶,川崎 雄貴					
到達目標						
(1)本校の専門教育に使用される施設や教育内容を体験し、自分の将来の専門性についての見通しを得る。 (2) 情報リテラシについて理解する。 (3) レポートの書き方を理解し、基本的なプレゼンテーションを実施できる。 (4) 海や船への関心を高め、仲間と協調する心の大切さを身につける。 (5) 工具や器具の取扱を理解し、それらを利用して自作ができるようになる。 (6) 社会を支える経済について基本的な事柄を知る。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	情報リテラシについてが理解できて、内容も説明できる。		情報リテラシについてが理解できる。		情報リテラシについてに関する理解できない。	
評価項目2	レポートの書き方を理解し、基本的なプレゼンテーションが理解できて、実施できる。		レポートの書き方を理解し、基本的なプレゼンテーションが理解できる。		レポートの書き方を理解し、基本的なプレゼンテーションに関する理解できない。	
評価項目3	海や船への関心を高め、仲間と協調し行動する大切さが理解し、実行できる。		海や船への関心を高め、仲間と協調する大切さを理解できる。		海や船への関心を高め、仲間と協調する大切さを理解できない。	
評価項目4	センサを利用したプログラム、工具や器具の取扱を理解し、それらを利用して自作が実行できる。		センサを利用したプログラム、工具や器具の取扱を理解し、それらを利用しての自作が理解できる。		センサを利用したプログラム、または工具や器具の取扱が理解できない。	
評価項目5	触媒と酵素のはたらきと特徴が理解でき、説明することができる。		触媒と酵素のはたらきと特徴が理解できる。		触媒と酵素のはたらきと特徴が理解できない。	
評価項目 6	地域の課題を発見し、それを解決できるアイデアを協働して考え、実行できる。		地域の課題を発見し、それを解決できるアイデアを協働して考えることができる。		地域の課題を発見し、それを解決できるアイデアを協働して考えることができない。	
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	①本科目は各学科の専門科目の基礎となるもので、組織において協力して行動することの意義を理解しながら、実技・実習と情報演習を行う。 ②一般教科、商船学科、電子制御工学科、流通情報工学科で学習する基礎的な実習・演習を所属学科に関係なく習得する。 ③本科目では専門的知識・技術とその基礎を体験する。社会に貢献できる創造力と実践力の基礎を身につける。					
授業の進め方・方法	前期は、1年生を6班にわけ、週ごとに、「練習船実習」「ロープワーク」「触媒と酵素のはたらきの観察」「工具・測定器取扱実習」「プログラミング実習」「地域創造実習基礎」のそれぞれを体験実習する。あわせて、クラスごとに行われる情報演習の授業も受講し、パソコン操作の基礎練習をする。後期は、情報演習に特化した授業を受講する。					
注意点	教室での座学と違って、実習施設や設備の利用には、学習内容以外にも、実習態度や危険を避けるための服装等にも注意を払う必要がある。各実習テーマに沿った指示を守ることが肝要である。正当な理由なく無断欠席した場合は未履修となる。病気などで止むを得ない事情により欠席する場合には、学級担任または教務係に授業開始前に連絡すること。予習事項はガイダンスの時に指示する。班ごとに実習の内容が異なるので、日程表と簡易手引書で確認すること。連絡事項や服装などを毎回確認すること。					
授業の属性・履修上の区分						
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業
授業計画						
		週	授業内容		週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	ガイダンス		基礎実習の目的を理解し、日程・実施場所・注意事項を確認する	
		2週	情報モラル教育		ソーシャルメディアのガイドラインにより、正しい利用方法を学ぶ	
		3週	情報モラル教育		情報システムのユーザガイドラインにより、正しい利用方法と管理方法を学ぶ	
		4週	練習船実習		練習船乗船中の常道や危険回避に関する知識を得る	
		5週	ロープワーク		船の運航と不可欠なロープの使い方を知る	
		6週	触媒と酵素のはたらきの観察		ガラス器具や化学試薬などの適切な取扱を学習する	
		7週	工具・測定器取扱実習		実習工具や測定機の扱い方を知る	
		8週	プログラミング実習		プログラミングに関する知識を得る	
	2ndQ	9週	地域創造実習基礎		地域の課題を発見し、それを解決できるアイデアを協働して考える	
		10週	報告書作成法 (Word)		Wordの使い方を習得し、実習に関する報告書を作成する	
		11週	報告書作成法 (Word)		Wordの使い方を習得し、実習に関する報告書を作成する	
		12週	班別準備 (Power Point)		Power Pointの使い方を習得し、実習に関するプレゼン資料を作成する	

後期		13週	班別準備（Power Point）	Power Pointの使い方を習得し、実習に関するプレゼン資料を作成する			
		14週	班別発表（Power Point）	自らの発表と他者の発表の聴講により、プレゼンテーション技術を習得する			
		15週					
		16週					
	3rdQ	1週	情報演習	ワークロ・表計算の実際を体験する			
		2週	情報演習	ワークロ・表計算の実際を体験する			
		3週	情報演習	ワークロ・表計算の実際を体験する			
		4週	情報演習	ワークロ・表計算の実際を体験する			
		5週	情報演習	ワークロ・表計算の実際を体験する			
		6週	情報演習	ワークロ・表計算の実際を体験する			
		7週	情報演習	ワークロ・表計算の実際を体験する			
		8週	情報演習	ワークロ・表計算の実際を体験する			
	4thQ	9週	情報演習	ワークロ・表計算の実際を体験する			
		10週	情報演習	ワークロ・表計算の実際を体験する			
		11週	情報演習	ワークロ・表計算の実際を体験する			
		12週	情報演習	ワークロ・表計算の実際を体験する			
13週		情報演習	ワークロ・表計算の実際を体験する				
14週		情報演習	ワークロ・表計算の実際を体験する				
15週		情報演習	ワークロ・表計算の実際を体験する				
16週							
評価割合							
	試験	発表	レポート・課題	小テスト	成果品・実技	その他	合計
総合評価割合	0	0	50	0	50	0	100
基礎的能力	0	0	30	0	30	0	60
専門的能力	0	0	10	0	10	0	20
分野横断的能力	0	0	10	0	10	0	20